論文　日本コンクリート工学年次大会2021名古屋における和文原稿作成テンプレート

南谷　伝蔵\*1・乗鞍　英麿\*2・鞍乗　麿英\*3

要旨：左右の両端を2文字ずつあけて4行～6行で記載する。要旨は論文の内容と結論とを最も簡潔に伝え，しかも論文中に含まれるすべての新しい情報に言及するようにする。序論の一部ではないことに注意しなければならない。要旨の表現に対する根本的な要請は，論文の主題についてかなりの程度の知識をもっている読者であれば本文を見ないで要旨だけを読んでも理解できるように書くということである。したがって，広く使われていない略記法，記号，術語を使ってはいけない。本文中の式，図，表，文献などは引用すべきでない。式を引用する必要があれば式そのものを書くこと。

キーワード：定着鉄筋，載荷速度，破壊力学　のようにカンマで区切って一行以内とする

# 1. はじめに

　本原稿の本文は，和文原稿の執筆要領の概要を示したものである。詳細に関しては，執筆要領で確認願います。

　原稿は，A4サイズ横書き25字×47行×2段組，余白を上25mm，下20mm，左22mm，右22mmとして作成する。フォントの色は黒とし，種類はMS明朝・MSゴシックとし，英数字等にはTimes New Roman・Symbolを使用する。その他の種類のフォントについては，PDFファイル作成時のフォント埋込みが正常に行えない場合があるので使用しないこと。

# 2. 原稿の書式について

## 2.1 題目・著者名・要旨・キーワード

### (1) 論文・報告の種別と題目

\*1 城北大学　工学部土木工学科准教授　博士（工学）　(正会員)

\*2 城北大学　工学部土木工学科　(学生会員)

\*3 南北コンサルタント（株）　第一設計部

　論文・報告の種別を第1ページ1行目に左寄せで記入し，その後1文字空けて題目を記載する。フォントの種類はMSゴシックとし，大きさは14ポイントとする。題目は簡潔で，内容を的確に表現するもので，文字数は55字以内とすること。1行に収まらない場合は，2行目の左から4文字目から続きを書き始めること。

### (2) 著者名と所属

　著者は題目から1行空けて，中央揃え（センタリング）で記載する。フォントの種類はMS明朝，Times New Romanとし，大きさは9ポイントとする。所属先については，各著者の右肩に付した\*（アスタリスク）＋数字に対応する脚注とし，「勤務先名　所属部署　肩書　学位　会員表示」を示すこと。

　なお，連名者は会員外でもよいが3名以内とし，会員外の会員区分表示は，なにも記載しないこと。また，投稿締切り後の著者の変更（順番の変更も不可）は，一切できないので注意すること。

**会員外の場合は，会員区分の表示はしない**

### (3) 要旨およびキーワード

　要旨は，著者名から1行あけて書き始め，必ず1段組とし，左右両端を2文字ずつ空け，長さは4行～6行までとする。見出しの「要旨：」のみ，MSゴシック，で記載し，要旨の文章のフォントの種類および大きさは，本文と同一とする（「2.2 本文」を参照のこと）。キーワードは，要旨の次の行から書き始め，必ず1段組，1行以内とし，各キーワードをカンマ（，）で区切る。見出しの「キーワード：」のみMSゴシックで記載し，それに続くキーワードのフォントの種類および大きさは本文と同一とする。

## 2.2 本文

　本文はキーワードの後に1行空けて2段組で記載すること。フォントの種類はMS明朝，Times New Romanとし，大きさは9ポイントとする。章，節の見出しは左端から，項の見出しは1文字空けてから書き出す。また，番号とその後のスペースは半角で記載し，それだけで1行とること。見出しのフォント種類はMSゴシックとし，大きさは9ポイントとすること。各章の見出しの上側は1行空けること。最終ページの文末は，左右の段を出来る限り揃えて終えること。

# 3. 数式・単位・図表について

## 3.1 数式

　極力簡潔にまとめ，式は3文字空けてから書き始める。式番号は(1)，(2)，(3)とし，式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は，式(1)，式(2) とする。表記例を以下の式(1)に示す。

 (1)

## 3.2 単位について

　単位はSI単位とする。

## 3.3 図・表・写真について

### (1) 番号とタイトル

　タイトルのフォントの種類は，数字も含めて黒色のMSゴシックの和文（図－\*　和文）またはTimes New Romanの太字の英文（**Fig.\*　English**）で統一し，大きさは本文と同一とすること。文章中の引用においても，数字も含めて必ず黒色MSゴシックの和文（図－\*）またはTimes New Romanの太字の英文（**Fig.\***）で統一すること。また，図・写真の番号・タイトルは図・写真（位置）の下に，表の番号・タイトルは表の上に記載すること。

### (2) 配置

　図・表・写真は，本文に近いところに配置し，ページ幅一杯または段の幅一杯に配置すること。つまり，中途半端な文章を図・表・写真の左右に記載しないこと。また，参考文献の後（文末）には配置しないこと。

なお，本文と区別できるように，番号・タイトルを含む領域の上下を本文から1行以上空けること。また，図・表・写真の連続配置も同様とすること。

### (3) 色と解像度

　図および写真は，カラーを使用してもよいが，必ず線・点線や写真が判読できるか確認すること。特に薄い色（例えば，黄色，緑色，水色）に気を付けること。また，原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は，原稿のファイルサイズに影響するので，必要最小限にとどめること。

### (4) その他

　図－1および表－1に示すように，図・表中の線の太さや文字の大きさに留意すること。図・表中の文字は，７ポイント以上とするが，出来れば本文と同一の大きさとすることが望ましい。

　内容上どうしても同一ページに載せる必要がある場合を除き，複数の図表のみのページを作ることのないよう，割付けに配慮すること。

表－1　表の作成例

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 組骨材の最大寸法(mm) | スランプ(cm) | 水セメント比(%) | 空気量(%) | 細骨材率(%) | 単位量 (kg/m3) |
| 水*W* | セメント*C* | 細骨材*S* | 粗骨材*G* | 混和剤*A* |
| 20 | 8 | 47 | 4 | 35 | 150 | 319 | 650 | 1217 | 0.798 |
| 30 | 8 | 44 | 4 | 34 | 152 | 334 | 636 | 1214 | 0.834 |
| 40 | 8 | 44 | 4 | 34 | 153 | 348 | 621 | 1210 | 0.870 |



7ポイント以上

図－1　図の作成例

# 4. 参考文献について

## 4.1 参考文献

　参考文献は，入手可能なものに限るため，投稿中，査読中，印刷中等の論文・報告は引用してはならない。また，参考文献に記載した文献は，本文で必ず引用すること。

　「結論」あるいは「まとめ」の後にMSゴシックの「参考文献」と明記し，フォントの大きさは9ポイントとすること。

　参考とした文献名のフォントは，MS明朝，Times New Romanとし，大きさは9ポイントとする。また，使用順に 1)，2) のように番号をふり，まとめて掲げること。

　文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に，上付数字で1),2),3)・・・のように明記しておくこと。

　参考文献は文末に記載し，左・右の段を揃えて書き終えるように原稿を作成すること。

## 4.2 記載方法

### (1) 論文等の場合

　著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

### (2) 単行本の場合

　著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年月の順とする。

7ポイント以上

### (3) 著者名

　和文文献の著者名は必ずフルネームを記す。また，著者が5名以上の場合には，筆頭著者以外を「ほか」と省略してもよい。

　欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマの後にイニシャルで示す。また，著者が4名以上の場合には，筆頭著者以外を「et al.」として省略してもよい。

### (4) 発行年月

　和文文献の場合，西暦に統一して，1988.11，1991.2のように記す。欧文文献では，Nov.1988，Feb.1991のように記す。

　(5)インターネットの場合

　インターネットのタイトル（入手先）：URL（閲覧日：2016年11月6日）の順番で記す。

# 5. PDFファイルの作成

　PDFファイルの作成および注意事項を以下にまとめる。詳細については，年次大会2021（名古屋）ホームページのPDF作成方法（「電子投稿のページ（https://confit.atlas.jp/jci2021）」の「FAQ」に掲載）を参照のこと。

1. Adobe Acrobat （アドビシステム社）を使用し，全てのフォントの埋め込みをして作成したPDFファイルとする。
2. PDFファイル変換後，全てのフォントが埋め込みされていることを必ず確認すること。確認方法の詳細については，年次大会2021（名古屋）ホームページのPDF作成方法を参照のこと。
3. Acrobat Readerは，PDFファイルに変換することはできない。
4. PDFファイルの容量は2.0MB以下とし，これを超えたものは受け付けない。
5. PDFファイルが2.0MBを超えた場合の対策として　は，
	1. PDFファイルへの変換時の「カラービットマッップ」もしくは「グレースケールビットマップ」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　の解像度（デフォルトは72dpi）の設定を小さ

くする。詳細はPDF変換のインストラクションを参照のこと。

* 1. 原稿に貼り込んだ写真の解像度および色数を小さくする。写真を白黒にする。（写真を貼り込んだ後に縮小しない。）
1. 図および写真は，カラーを使用してもよいが，必ず線・点線や写真が判読できるか確認すること。PDFファイルへの変換後に印刷して，原稿のイメージが変わっていないかを必ず確認すること。特に，PDFファイルへの変換後にページ数が異なる場合があるので，よく確認すること。
2. 投稿画面上でPDF化したものは，あくまでも査読で使用するためのPDFであって，投稿者自身で作成された最終原稿・修正原稿のPDFファイルが，DVD版論文集に登載される。

# 参考文献（記載例）

1. 小林一輔，魚本健人，嶋　文雄：コンクリート混和材としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17，No.5，pp.87-95，1979.5
2. コンクリート工学年次大会投稿画面FAQ参照: http://confit-sfs.atlas.jp/customer/jci2017/web/ronbuntoko/faq.html（閲覧日：2016年11月6日）
3. 岡田　清，六車　煕編：コンクリート・ハンドブック，朝倉書店，1981
4. Malhotra, V. M.: Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12,pp.28-31, Dec.1986
5. Collins, M. P. and Mitchell, D.: Shear and Torsion Design of Prestressed and Non- Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct.1980

**最終ページの文末は，左右の段を出来る限り揃えること。**

**また，参考文献の後には，写真・図・表を配置しないこと。**

**投稿締切日（1月12日）以降に発行されるものは、参考文献として引用（掲載）しないこと。**